

反核医師ジャーナル

第60号 発行:核戦争に反対する医師の会・愛知

2009年 9月10日
vol.28 No.2

(名古屋市昭和区妙見町19-2)
愛知県保険医会館気付
TEL052-832-1345

核兵器廃絶へ 今、絶好のチャンス

核兵器のない平和で公正な世界を
A Nuclear Weapon-Free, Peaceful and Just World



原水爆禁止世界大会閉会総会（八月九日・長崎）、下…総会で挨拶した田上長崎市長（中央）と各国の政府代表、上…平和公園の平和祈念像

原水爆禁止09年世界大会 「長崎から世界へのよびかけ」より

（抜粋）

- 核不拡散条約（NPT）再検討会議で、核保有国をはじめ、すべての政府が核兵器全面禁止・廃絶条約の締結への一步を踏み出すよう強く求めましょう。
- 核兵器廃絶と「非核3原則」の厳守を政府に迫る「非核日本宣言」の運動を、全国各地でさらに広げましょう。米軍基地再編強化や自衛隊海外派兵に反対し、憲法9条を守り生かす運動をいっそう広げましょう。米軍への「思いやり予



- 算」や軍事費の削減、いのち・くらし・雇用を守る運動を強めましょう。
- 被爆者の願いを継承・発信し、被爆の実相を次の世代と世界に伝える証言活動や原爆展に、全国各地でとりくみましょう。
- 青年たちの創意とエネルギーにあふれる行動は、未来への希望です。核兵器のない世界の扉を開くため、被爆者とともに、若い世代とともに、いまこそ声を合わせましょう。

第7回IPPMW北アジア・南アジア合同地域会議

8カ国の代表者が熱心に討議

09・8・22
～23・広島

反核医師の会・愛知事務局長 土井 敏彦

参加国は、北アジアが中国、モンゴルと日本。朝鮮半島の2カ国は欠席。(北朝鮮は、メッセージを在日朝鮮総連本部が代読)南アジアは、インド、パキスタン、バングラデシュ、ネパール、スリランカであった。北は沈滞、南は活発の第一印象。

会議の構成は、一日目が総会(といっても、各国あいさつが主のよう)、基調講演(ピースデポ前代表・梅林宏道氏)、シンポジウム(核兵器廃絶へ向けて…



広島から世界へ、ウエルカムパーティ。二日目が医学生活動状況報告、南アジア地域セッション、教育講演①原爆放射線の健康に与える影響(放影研・児玉和紀氏)②原爆被爆者の白血病と骨髓異形成症候群(MDS)(長崎原爆病院・朝長万左男氏)。

私にとって、刺激的な話がいくつかあった。その一は、オバマ演説の評価についての、シンポジウムでの浅井基文氏のコメント。オバマ個人としての核兵器廃絶への関心は理解できるとしつつ、アメリカの核政策にすぐ結びつくものではない、むしろ、楽観論を生む危険がある、

というもの。その二は、朝長先生の講演、原爆被爆は幹細胞障害との仮説を立て、白血病は若年発症したが、MDSは高齢者発症する後障害であろうという。そして、若い世代の活躍がやはり印象に残った。医学生セッションでは、座長、報告者とも英語のスピーチ。インターナショナルを地でいった感じ。また、初日の冒頭に、広島の中高生で組織する、「ノーニュークネットワーク」から「オバマを広島に呼ぼう」と、みんなで折り鶴を折る運動の呼びかけがあった(蛇足ながら、会議終了後元安橋上で彼らに遭遇し、鶴を折って激励していたら、中国新聞社の記者に取材された。マスコミの関心もあるらしい)。

大きな流れとなった核廃絶を実感し、元気をもらった。

原水禁世界大会に参加して

今こそ核兵器のない世界を

愛知県保険医協会事務局長 大竹 遥野

原水禁世界大会二〇〇九年・長崎」が八月七日から九日まで長崎市で開催された。開会総会には政府・国際機関や非政府組

織の代表など二四カ国、八十五人の海外代表をはじめ全国各地から七千人が集まった。四月のプラハでの「核兵器の

ない世界」を提唱したオバマ演説は、今日まで被爆者の苦しみや核兵器廃絶の訴えが、世代や国を超え世界の人々を動かし、平和運動がここまで世界を変えてきた成果を示すものである。

被爆者を代表して登壇した長崎被災協の谷口稜暉会長は「オバマ大統領の演説は被爆者にとって大きな希望を与えた」と喜び一方で「核の傘にしがみつくグループもある。気を引き締めて核兵器廃絶の道を切り開かなければならない」と警鐘を鳴らした。

また田上富久長崎市長は「どの国にいてもどの町にいてもできることがある。オバマ大統領の努力を待つのでなく、私たちの努力もネットワークをつくり『核兵器はいらない』という大きな流れをつくらう」と訴えた。

近年の原水禁大会には多くの青年の参加がある。これは核兵器廃絶への希望でもある。「核兵器をなくそう・世界青年のつどい」には国内外から約千六百人の青年が集まり、「核兵器のない世界へーわたしの想い」と題し、日本、韓国、アメリカなど各国の青年たちが自身の取り組みや

核兵器廃絶への思いなどを発言した。

八日は核兵器廃絶を目指す多彩なテーマで、十八のフォーラムや分科会が開かれた。

「青年のひろば」では被爆者から直接被爆体験を聞いた。当時十一歳と五歳だった姉妹は「強い光が射した直後、爆風に吹き飛ばされ、気がつくとはまさに地獄絵図だった」と、鮮明に焼き付けられた原爆投下直後の長崎での記憶を語った。あの日長崎で無念のうちに亡くなった友人たちに「何故伝えてきてくれなかったのか」と責められるような気がして、姉妹は今回初めて人前で自らの体験を語ることを決意したと語った。

九日の閉会総会には約七千八百人が参加し、「今こそ被爆者とともに核廃絶を求める声を世界に広げてきた日本の原水禁運動が力を発揮するとき。来年五月に開かれる核拡散防止条約(NPT)再検討会議で核兵器禁止条約への一步を踏み出すよう強く求める」決議を採択。また「核兵器のない世界を」国際署名を「千二百万筆集めよう」との呼びかけがなされた。

核戦争に反対する医師の会総会と

「六ヶ所村ラプソディー」上映会開く

核戦争に反対する医師の会・

愛知は六月十三日の午後、〇九年度の総会と、ドキュメンタリー映画『六ヶ所村ラプソディー』（鎌仲ひとみ監督）の上映会を開催。二十五人が参加した。

医師の会は、『アメリカ、ばんざい』を制作した藤本幸久監督と影山あさ子さんの講演会や、金沢で開催された反核医師・医学者のつどいへの参加の他に、原爆症認定集団訴訟の支援を続けている。特に昨年度は、被爆者の原爆症認定を進めるための認定申請に関わる研究会を開催し、また元IPPNWの共同会長だったアシュフォード女史との懇談会を行うなど、今の情勢を反映して活発に活動した。〇九年度も、すでに五月十六日の二十七周年記念講演会で、核戦争を防止する兵庫県医師の会の郷地秀夫氏を招き『曙を呼び戻せー原爆症とたたかった医師たち』の話を聞いた。総会ではこれらの活動・会計報告を承認し



医師の会総会の模様（6月13日・協会伏見会議室）

今年度の活動計画を決めた。

総会終了後に上映した『六ヶ所村ラプソディー』は、大規模な使用済み核燃料の再処理施設を押し付けられた青森県六ヶ所村と近隣地域で、農業を営みな

がら大地に根を張って地道に反対運動を続ける人々の日常を描いている。もともとこの核燃施設は、七〇年代に全国で展開された「新全総」の「むつ小川原開発計画」が破綻してその埋め合わせとして始まったもの。鎌仲監督は、一度重大事故を起こせば東北地方どころか全国に放射能汚染が拡散するのが明確な、この再処理工場を稼働させてよいのか？ いつまでも原発に頼ったエネルギー政策を続けていてよいのか？と、この映画で一人ひとりの日本人の胸に問うている。

極めて危険な核燃料再処理は地球規模の犯罪

「六ヶ所村ラプソディー」を見て

中区 浅野 晴義

総会の後に、鎌仲ひとみ監督による映画「六ヶ所村ラプソディー」が上映された。

映像は、青森県下北半島の美しい自然を淡々と写し出す。かつて入植、開発が行われた六ヶ所村は新しい工場群が来るからとの名目で土地が買い上げられ、やがて核再処理工場建設計画が

「六ヶ所村ラプソディー」
（監督：鎌仲ひとみ DVDで発売中）



明らかに住む一万余千人の農民、漁民の苦難の日々が始まったのである。

核再処理工場建設は、核燃料サイクルを完成する国の方針で

あるとして、かなり強引に進められてきた。しかし、核再処理工場は、百万KW級原発が排出する一年分の放射性物質を一日で環境に放出することになると

いう（一部は大気中に、一部は海中にと、環境に放出される）。大気中に出る放射性物質は別として、海岸から三キロ離れた海

中に放出される放射線量だけでも、年々三億三千万人の摂取限度量といわれる膨大な灰なのである。農産物も漁獲物もや

がて放射能汚染の被害を被ることは歴然としている。

そして農地を奪われ、漁場を奪われた人々は、フィルムバッジを付けて再処理工場の仕事に収入を求めざるをえない状況に追いやられてしまったのである。

しかも、現在四十三トンのプルトリウムが日本にあるといわれ、その使い途もはっきりしないのに核再処理で更にプルトリウムをとり出す意味が存在しない。

この映画を観て、そもそも人間が原子力に手をつけたことに決定的な誤りがあったと強く感じる。

核燃料サイクルの方式は、現在世界でどの国も推進しようとしていない。このきわめて危険で、膨大な経費のかかる将来の方向を選ぶことは、まさに地球規模の犯罪といってよいのではなからうか？

いつまでも過ちを黙って見過ごすことは許されない。核燃料再処理工場は閉鎖して、人類の分別を取り戻すべき時なのだろう。

曙を呼び戻せ

原爆症とたたかった医師たち

郷地 秀夫 (核戦争防止兵庫県医師の会世話人)
(兵庫県保険医協会理事)

核戦争に反対する医師の会・愛知は五月十六日に二十七周年記念講演会を保険医協会伏見会議室で開催。一般市民を含めて七十八人が参加し郷地秀夫医師の話聞いた。その講演の要旨を紹介する。



郷地 秀夫氏

原爆症認定集団訴訟に 医師として加わる

私は今までに、兵庫県で千五百人くらいの被爆者の方々の診療と二百人くらいの被爆者の皆さんのお付き合いを通じて、多くの被爆者の方々と関わってきました。兵庫の六十人の認定

患者のうち半分は私が認定申請の主治医意見書を書きました。

二〇〇三年に全国の被爆者が原爆症の認定を求めて集団訴訟に立ち上がったとき、私の今までの被爆者の方々との関わりからして支援するのは当然のことと考えて、近畿の裁判の医師団に加わりました。三人の医師団の一人として弁護団との打合わせの会議に参加したとき、証人に立つてほしいと頼まれました。そして、そこで弁護団から渡された原告の方々の名簿を見て驚きました。私は、原爆症の認定申請については、自分にできることはかなり努力してやってきたつもりでしたが、その資料には、今まで主治医意見書に私が書いたこともない病名が幾つも並び、被爆した場所も爆心地から二〜三キロなど遠距離の人がいたのです。

この九人の原告の方々が原爆



「無理」な申請は 断ってきたが……

私は今まで、一年間に一人の認定を勝ち取るのを目標に二〜三人の申請の主治医意見書を書いてきました。しかし、爆心地から二キロ以上遠になるとダメ、対

象は直爆だけと信じて、入市被爆者には書いたことがありません。実際、そういう人は認定されなかったですから。だから、原爆症と確信できる人以外には、「申請は無理ですよ。意見書は書けません」と断ってきたのです。

その資料を見て、辛い思いで帰られたであろう私の断ったた皆さんの被爆者のことが走馬灯のように浮かんできました。

反省―被爆者の苦しみ を改めて知る

そして、弁護士のとめた陳述書を何度も読み返しました。分からないところは、直接原告にお会いして話を聞きました。聞けば聞くほど、その人の生活そのものが、原爆に遭わなければこういう苦しみや辛さを背負うことはなかっただろう、病気も、国が認めるがんや白血病でなくともこの人の病気は、原爆のせいとしか考えられない、これこそ原爆症だ、と確信するようになりました。

私は、毎日の診療で被爆者の患者さんも診ますから、被爆の体験の話をたくさん聞いてきま

した。ところが、実は被爆者の方々から聞いた話が原爆症についての認識を深めることにはつながっていません。自分がいかに被爆体験を話してくださった患者さんの話をうわの空で聞いていたか、被爆者が抱えた苦しみを理解していなかったかを悟って、本当に申し訳ないことをしたと深く恥じました。

立証するために 原爆症を学び直す

それまで私の原爆症の知識は、①『広島・長崎の原爆災害』(一九七九年)、②『原爆放射線の人体影響』(一九九二年)、③放射線影響研究所(放影研)一九四七年アメリカが作ったABC Cが一九七五年に改組され、日米共同の研究所とされた)の出す研究データ―この三つによっていました。しかしこれらを教科書としていただけでは裁判では太刀打ちできません。

考えてみれば、原子爆弾そのものが「新しい兵器」なのでから、原爆が引き起こす病像も今までの教科書の知識で説明できるはずはないのです。

それからは、「もう一度被爆と原爆症の実相について調べて、学び直すしかない。今までの教科書にはない新しいデータを見つけて、国の根拠のDS86を覆し、原告の被爆者が抱える疾病を原爆症と立証する資料を探さなくては」と、本探しを始めました。私にとっては裁判に勝つための新たな闘いでした。

本探しに広島や長崎に行つて、親しくなった古本屋さんが「良い本があるけど要りませんか？」と電話してくれましたし、インターネットで国内や外国の放射線や原爆に関わる本・資料類を探しまくりました。海外のオー

クションで、特にアメリカでは非常に良い資料が出て来るものがあるんですが、これを落札しようとして粘っていると夜中の二時、三時になります。妻に「早く寝なさいよ。大体そんなに集めていたら、読んでいる間がないでしょう」と言われていました。

曙を呼び戻せ

「原爆症とは何か」

をめぐる闘い

そうやって手に入れた本や資

料を読んで見えてきたものは、多くの先輩の医師たちが、被爆者たちを見守りながら、「原爆症とは何か」という医学的概念を作り上げようと奮闘してきた歴史です。ABCを中心とする「残留放射能は問題ない。慢性的な原爆の影響はない」と原爆症を隠して矮小化しようとする力と、先輩の医師たちがせめぎ合ってきた闘いの歴史であったことが解つたのです。大江健三郎さんが『ヒロシマノート』の中で「原爆医療史は日本の保守政府に対する反体制の歴史だった」と語っておられます。

実は、私はこれを、今日のタイトルである『曙を呼び戻せ』と題して本に書いているところだ。『広島編』『長崎編』として出すつもりです。

原爆被害は終わっていない、被爆の実相は解明されていない

原爆被害を知る上で大元になつた本があります。『原子爆弾災害調査報告集』全二巻（一九五三年）です。これは、アメリカが妨害しプレスコードを敷いてな

かなか発行させなかったもので、サンフランシスコ条約締結後にやっと目の目を見た本です。広島島の原爆投下後すぐに救援に駆けつけた医師や医学者たちが、そのときに行つた救援の模様を医学的論文にまとめたもので、当時被爆者たちがどのような状態にあったのか克明に書かれています。

その他に、英文ですが一九五八年に広島日赤の重藤先生らがABCの資料を使って分析し直した本、五九年に「原子爆弾後傷害研究会」が被爆の実相を本にまとめ、六一年の『原水爆被害白書』には湯川秀樹博士が巻頭言を書いていますし、七三年に飯島宗一先生（愛知の医師の会前代表）の『核放射線と原爆症』と、次つぎと先輩の医師たちの重要な本が出されました。

原爆症を隠す三つの誤り

私はこれらの本で、原爆症とは何かを学び直して次の三つの誤りに気がつきました。

①原爆被害は終わった、②被爆の実相はすべて解明された、③遠距離・入市被爆の人に残留放射線の影響は殆どない――とす

る誤りです。

「教科書的な」狭い知識に頼つて被爆者の診療をしてきた私は、大きな間違いをしていたと悟りました。

原爆後障害の解明は

未だ五パーセント

放影研の大久保利晃理事長が

二年前、「原爆の後障害で解明されているのは五割程度かもしれない」と言いました。放影研は批判の的だったABCを引き継ぐ研究所ですが、被爆者の一番多くのデータを持っている唯一の施設です。そこで疫学が専門の大久保先生が、まだ原爆症の九五割は未解明だと言われた。私たちは裁判の中で、この五割の範囲で「原爆症だ」「いや原爆症じゃない」とやり合っているのが現状なんです。

2020年に

過剰死亡のピークが

放影研は、二〇〇〇年の十三報以降報告を公表していませんが、その二〇〇〇年の報告の中で、白血病は早期に、固形がんは二十年後から、がん以外は三

十年後からどんどん増えていく。原爆放射線による過剰死亡のピークは二〇二〇年になると予測されています。原爆被害が最大限に現われるのは、放射線感受性の高い二十歳未満で被爆した人たちが高齢化するこれからだと、原爆症をひた隠しにしてきた放影研が長年のデータに基づいて言うのです。

「原爆症」と医師たちの立場——リフトンの分類

アメリカの精神医学者ロバート・リフトンは、広島で被爆者だけでなく医師に対しても聞き取りをして、原爆症に対する医師の考えを分けると次のような四種類になると言つたのです。一、被爆者に発症する疾病は原爆症と考えてよい。二、疑わしい疾病は原爆症と考える。三、原爆放射線との関係がある程度説明できなければ、原爆症とは言えない。四、原爆症という病名は有害だとして否定する。私も今回の裁判に関わる前は「三」、下手すると「四」ではなかったか。裁判でやっと変つたのです。

原爆症認定を進めるために 医師の力を発揮して

被爆者手帳を持った被爆者は全国で二十四万人です。そのうち、二〇〇八年度三月末までは、原爆症と認定された被爆者はわずか二千二百人足らずしかいませんでした。

昨年四月、私たちの裁判や運動の成果で認定基準が変わったので、一年間で三千人が一気に認定されました。五月に大阪高裁の判決は勝利が確定しました。これから、広島・東京高裁で判決が出ます。

「原爆症」は、裁判や運動の

力を通じて、被爆者が体験してきた被爆の実相に近づき、拡大されていくものだと思います。二十四万人のうちまず一〇〇

は認定されるはずだと思います。

兵庫では、昨年度百六十人が申請して六十人が認定されました。

愛知の被爆者は三千九百人です。

意外と先生方の近い所に被爆者はおられるはずです。ただ、今

まで名乗っても良い事などなかったのが被爆者の方々の生活だったので、言わないだけです。

ぜひ、被爆者の皆さんに原爆症の認定を勧め、協力してあげてください。

被爆者数 (2008年度末)

区 分	人 数	構成比
1号 直接被爆	145,252人	58.7%
(愛知県)	2,007人	70.3%
2号 入市被爆	58,683人	23.7%
(愛知県)	528人	18.5%
3号 救 護 等	24,238人	9.8%
(愛知県)	196人	6.9%
4号 1,2,3号 の胎児	7,396人	3.0%
(愛知県)	122人	4.3%
受診者証	11,914人	4.8%
合 計 247,483人 (前年比▲8,123人) (愛知県) 2,853人		

諸手当受給数 (2008年度末)

	月支給額	受給者数	構成比
医療特別手当 *原爆症認定者	137,430円	4,323人 (2,184人) *愛知県43人 (27人)	1.98% (0.9%)
特別手当 *治療した認定者	50,750円	1,018人	0.47%
小頭症手当	47,300円	22人	0.01%
健康管理手当	33,800円	205,277人	94.21%
保健手当	16,950円	7,255人	3.33%
合 計	—	217,895人 (224,237人)	100%

※()内は前年度の人数。前年度との大きな違いは、集団訴訟の運動と世論の後押しによって08年4月から新しい認定基準が導入され、原爆症と認定された被爆者が2倍に増えたこと。

イラクの現状、原爆と劣化 ウラン弾の被害を話し合う

講演会の後半、医師の会も協力しているセイブ・イラクチルドレンの招きで来日し、三月から五月まで名大病院の小児科で血液学と病理学の研修を受けていたラシャ・サムーン、ドウハ・ジューア両医師がイラクの状況について報告した。

病理が専門のラシャ医師は、百五十標本あれば十例くらいが悪性、二〇〇七年には二千七百



左からドウハ医師、
通訳の加藤氏、ラシャ
医師

た湾岸戦争後に先天異常が増えており、口唇口蓋裂が非常に多い」と述べた。

講演会のあと、郷地・ラシャ・ドウハ各医師を囲んで懇談会を行い二十五人が参加した。

ドウハ医師から、「イラクでは全土が汚染されているので安全な逃げ場もなく、国民皆が劣化ウランに曝されている。被爆者の治療に当たってきた郷地先生に聞きたい。イラクでの健康被害はこれからどうなると思うか？」という発言があり、郷地氏は次のように感想を述べた。被爆後のがんの発症については、潜伏期間が問題だ。一番早く現われる白血病は、三〇五年後から増え始め七〇八年後がピークだった。臓器により違いますが、今、被爆者の中では固形がんが増えている。イラクでの現われ方は非常に短いと感じている。

物理学者の沢田昭二氏からは、「日本の被爆者と、劣化ウランに被曝したイラク人のがんの発症とは様相が違う。その差は、重金属である劣化ウラン弾の化学毒性にあると思っている」という発言も出るなど、有意義な意見交換が行われた。

二十例が悪性だったと述べた。ドウハ医師は、「小児血液疾患は急増しており、イラク地域特有の地中海性貧血で三千人くらいの患者がいる。イラクでは骨髄移植ができないので、治療は輸血しかない。悪性腫瘍は、一九八〇〜二〇〇一年に比べると二〇〇四〜二〇〇八年のステータジは一ケタ多い発症率だ。アメリカが劣化ウラン弾を初めて使っ

原爆症集団訴訟解決へ国と確認書

一審勝訴の原告は認定、敗訴原告も基金つくって救済と



二〇〇三年四月の提訴から六年四カ月、原爆症認定集団訴訟をたたかってきた全国原水爆被害者団体協議会（被団協）は集団訴訟の解決に向けて国との間で合意し、原爆投下の日である八月六日、原告・弁護士も見守るなか、広島で麻生首相と確認書を交わした。

また、河村官房長官は同日午前の記者会見で、被爆者に陳謝するとともに「唯一の被爆国として原爆の惨禍が再び繰り返されないよう核兵器廃絶に向けて主導的役割を果たす」と述べた。

被団協や原告団・弁護士・全国の被爆者支援ネットは、集団訴訟の一括解決を要求して、今年に入ってから雪の降る日も凍える寒い日も厚労省前にテントを張って座り込みを続け、国が解決時期を設定していた東京高裁判決の行われた五―六月にも座り込みを行うなど、粘り強い交渉を続けてきた。厚労省が

裁判に負けた原告を救済するなど不可能と拒否するなかでも、原告の全員救済を交渉の大枠として要求し、ようやく合意に至ったもの。

「原爆症認定集団訴訟の終結に関する基本方針に係る確認書」は下段のとおり。今回の確認書は原告三百六人を対象にしたもので、一審で勝訴した原告は認定する、敗訴した原告の救済に関わる基金については議員立法で行うとして、今後の協議と具体化に委ねられている。

一方で認定申請をして結果を待っている被爆者が七千六百人おり、一刻も早い認定が求められている。ただ認定基準について、昨年四月に改訂され更に今年六月に追加改訂されたが、殆ど証明不能な「放射線起因性が認められる」の条件が付いているなどにより、多くの却下も予想される。被団協・弁護士・支援ネット等は一貫して抜本的な

核戦争に反対する医師の会・愛知は、7月9日付けで
舛添厚労大臣宛に下記の要請書を送った。

原爆症認定集団訴訟の一括解決へ

勝訴原告の即時認定、原告全員の救済を求めます

原爆症認定集団訴訟で5月28日、東京高等裁判所は、被爆者援護の施策が「単なる社会政策的観点」に基づくものではなく、「戦争遂行主体であった国の国家補償的措置」であることを明確に指摘しました。

河村建夫官房長官、舛添要一厚生労働大臣は、「麻生総理の政治決断で、8月の広島・長崎の原爆の日までに、訴訟の一括解決を図る」と国会等で表明されています。

集団訴訟の提訴から6年、すでに68人の原告が亡くなっており、高齢で原爆症に苦しむ被爆者に、もはや時間はありません。もうこれ以上係争を続けることは許されません。集団訴訟の一括解決の鍵は、司法判断を受け入れ、被爆者救済の立場で対処することです。その観点から、ただちに以下の措置を講じるよう求めます。

- ◇ 集団訴訟の地裁勝訴原告について、高裁での係争をやめて、直ちに原爆症と認定すること。
- ◇ 集団訴訟18判決で示された判断基準に従って、幅広く原告を原爆症と認定すること。
- ◇ 原告の全員救済をはかること。

見直しを求めてきたが、審査の方針の緩和は確認書の「定期協議」の大きな課題になると考えられている。

原爆症認定集団訴訟の終結に関する基本方針に係る確認書

1. 1審判決を尊重し、1審で勝訴した原告については控訴せず当該判決を確定させる。
熊本地裁判決（8月3日判決）

について控訴しない。

このような状況変化を踏まえ、

1審で勝訴した原告に係る控訴を取り下げる。

2. 係争中の原告については1審判決を待つ。

3. 議員立法により基金を設け、原告に係る問題の解決のために活用する。

4. 厚生労働大臣と被団協・原告団・弁護士は、定期協議の場を設け、今後、訴訟の場

争う必要のないよう、この定期協議の場を通じて解決を図る。

5. 原告団はこれをもって集団訴訟を終結させる。

以上、確認する。

平成21年8月6日

日本原水爆被害者団体協議会

代表委員 坪井 直

事務局長 田中 熙巳

内閣総理大臣

自由民主党総裁 麻生 太郎

『核兵器のない世界を』

国際署名にご協力ください

オバマ大統領が四月にプラハ

でおこなった演説は、アメリカの大統領として初めて、「核兵器のない世界」を追求することを米国の国家目標にすると宣言しました。そのうえで、核兵器廃絶にむけた世界の諸国民の協力を呼びかけています。全世界で、核兵器廃絶を求める気運が広がっています。

今こそ、核兵器廃絶を願う一人ひとりの意思表示を全世界に呼びかけていきましょう。

概 要

一、『核兵器のない世界を』署名は、二〇〇八年の原水爆禁止世界大会（広島（ヒロシマデー集会）で提唱され、日本では国民の二割、千二百万筆を目標に取り組まれており、ノーベル物理学賞受賞者の益川敏英氏や金閣寺住職の有馬頼底氏らが呼びかけ人となっています。署名は、二〇一〇年五月、ニューヨークで開かれる国連の核不拡散条約（NPT）

再検討会議に提出します。

二、署名要領…全部埋まらなくても結構です。記入後お早めにご返送をお願いいたします。

三、返送方法…同封の返信用封筒をご利用ください。

四、追加の署名用紙をご希望の方は、反核医師の会担当事務局（☎〇五二―八三二―一三四五、愛知県保険医協会内）へご連絡ください。

NPT再検討会議とは？

■NPTは五年ごとに見直すことになっている。今度は二〇一〇年五月三日から四週間、国連本部で開催される。

■日本の原水協も参加する国際的運動団体『廃絶二〇〇』は、これに向けて五月二日（日）に世界の反核平和団体がニューヨークに集まって集会と大パレードを行うNY行動を準備している。

二〇〇〇年の再検討会議で「核兵器廃絶へ明確な約束」がアメリカを始め核保有国も含めて合意されたのに、二〇〇五年の会議ではアメリカの妨害でそれが反古にされた。来春の再検討会議に期待が寄せられている。

ご案内 参加を希望される方はご連絡ください (052-832-1345)

第20回 核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める 医師・医学者のつどいin鹿児島

●と き 11月21日(土)～22日(日)

●ところ 鹿児島県市町村自治会館

●参加費 5,000円／医学生1,000円

●メインテーマ「核はもうSAIGO!

DONな兵器もいりもん!!」

●内 容 (21日)

【講演】「核兵器のない世界へ向けて」黒澤 満氏

【講演】「核兵器は究極の疫病 ～半世紀を経てなお持続する原爆の人体影響～」朝長万左男氏

(22日)

【シンポジウム】「平和・憲法・核問題を考えるー いまできること」

●主 催 核戦争に反対する医師の会、第20回つどい鹿児島実行委員会

●会費納入のお願い●

二〇〇九年度の会費（五〇〇〇円）の納入をお願いいたします。同封の郵便振込用紙をご利用いただくか、次の銀行口座あてにお振り込みください。なお二〇〇八年度未納の方は併せて納入いただけますと幸いです。

東京三菱UFJ銀行・八事支店(普)108-297
「核戦争に反対する医師の会」

※不明な点などございましたらお手数ですが、ご連絡ください。

☎ 052-832-1345